

浜風通信

第3号
発行所：茅ヶ崎の浜辺（中海岸地区）づくり懇話会事務局
（日本工営株式会社 地域計画部 東京都千代田区麹町5-4 TEL 03(3238)8183）

第3回 懇話会

平成12年1月29日

- 挨拶
- 前回までの懇話会を受けて
 - 懇話会の目的と位置付け
 - 最終成果のとりまとめについて
 - 広報内容および方法について
 - 海岸保全施設計画策定の流れ
- 資料説明
 - 環境・利用の説明
 - 意見交換
- 委員発表（3名）
- 近藤先生講評
- 事務局連絡



平成12年1月29日（土）午後一時半～午後四時半まで、茅ヶ崎市役所分庁舎五階E会議室にて「第三回 茅ヶ崎の浜辺（中海岸）づくり懇話会」が開催されました。

今回の懇話会では主に、

1. 懇話会最終成果をどのようにとりまとめるのか
2. 中海岸地区の環境・利用面についての説明
3. 委員の方の発表

について、発表・意見交換等が行われました。

委員の方の発表では、各委員の方の茅ヶ崎海岸との係わりから、ご自身の今までの研究について、また海岸の利用方法・活動組織の提案等をお話していただきました。今回は三人の委員の方に発表して頂きましたが、三人の方々はそれぞれ違った形で茅ヶ崎海岸に接しており、違った角度から保全面、環境面、利用面につきまして課題・提案をして頂きました。

下記に第三回懇話会において議事をまとめました。

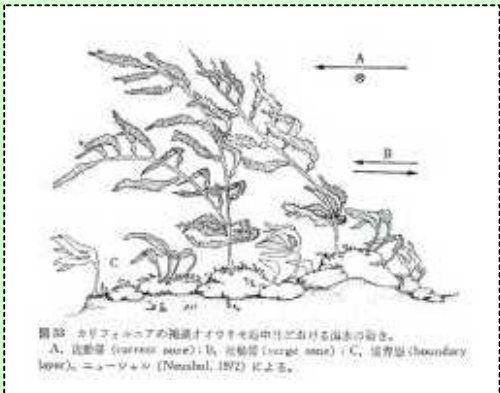
一月二十九日（土）

第三回 懇話会 の開催

トピックス1 海草と海水の動き

○ 第四回懇話会の中で「**海草があることによって、消波効果はないのですか？**」という質問が出ました。これにつきまして、委員の方から参考資料を送っていただいたのでご紹介いたします。

ニューシヤル(Neushul, 1972)によると、海藻は海中で一つ、またはそれ以上の数の水流帯を占有するらしい。ここでは、三つの水流帯をもつ場合を左図に示した。図にAで示したコンブ科植物の海中林の流動帯では、水は1秒間にほぼ1mの速度で一方方向に動いている。そしてより海底に近い波動帯では、海藻の前後運動が見られる。水流帯の最下部は厚さ約2cmの境界層で、この動きは非常にゆっくりとしている。もし海底のすぐ上で水が1秒間に約1m振幅するとしても、境界層での摩擦はその流速を十分の一、またはそれ以下に減少させてしまうと思われる。



「海藻の生物学」
A・R・O
チャップマン
著
共立科学ブックス・共立出版
S56出版

○ 今後のスケジュール

茅ヶ崎の浜辺（中海岸地区）づくり懇話会も残すところあと1回となりました。

第5回懇話会では、今までの取りまとめと致しまして、海岸に対する問題点・課題点・提案や、また利用面、環境面に関する利用方法、改善方法等の意見を出して頂き、課題マップとまとめたいと思います。

次回の予定は以下に示しております。変更等がありましたら、また後日ご連絡致します。

第5回 茅ヶ崎の浜辺（中海岸地区）づくり懇話会
3月4日（土） 場所：湘南なぎさ事務所
懇話会・現地見学会
(13:30～17:00)

1. 挨拶と説明 (10分)
2. 現地見学会 (80分)
3. 課題マップの作成 (60分)
-3グループに分けて-
4. 発表 (30分) 10分づつ
5. 近藤先生からの講評 (懇話会を振り返って) (10分)
6. 事務局からの挨拶 (10分)
7. オブザーバー講評と今後について (茅ヶ崎市、神奈川県湘南なぎさ事務所) (10分)

懇話会 (17:00～18:00 ぐらいまで)

編集後記

第3回・第4回懇話会では委員の方の発表を中心に懇話会を進めました。皆さんそれぞれ、委員の方の茅ヶ崎海岸との係わりから、ご自身の今までの研究についてや、海岸の利用方法・活動組織の提案等をお話していただきました。

今回は最後の懇話会となります。みなさんのご意見・ご提案をマップにまとめます。宜しくお願い致します。

茅ヶ崎の浜辺（中海岸地区）づくり懇話会 事務局
日本工営株式会社 地域計画部
03-3238-8183
田中・九鬼・小蘭井

『懇話会最終成果をどのようにとりまとめるのか？』について』事務局・今年度は、資料提供や現地踏査等をふまえて、海岸の現況を認識して頂く一般的などういった工夫があるか等を勉強してそれをもとに委員の方々に様々な意見をそれぞれの立場で述べて、海岸に対する問題点であるとか課題・提案や、また利用面、環境面に関する利用方法、改善方法、また活動組織のあり方等の意見を出して、最終回の懇話会で課題マップとしてまとめたいと思います。成果は、活動の目的、活動経緯、今までお配りした新聞、最終的に作成した課題マップ、委員の方々から寄せられた意見等を小冊子に取りまとめたいと思います。

質問・浜風などを公民館等に配布すると良いのではないのでしょうか？事務局・白黒コピーしたものをなぎさギャラリーに置かせていただいています。部数が少ないので皆様の目に届いていないのかもしれませんが、今後もう少し部数を増やしても良いのではと思っております。

意見・茅ヶ崎市は海のまちというイメージを持っているにもかかわらず、子供が海にいけないのはなぜかと思っておりました。このことを学校の先生に質問をしたところ、海が危険だということではなく、国道134号線を通過するのに危険が伴うからということがわかりました。確かに昔と比較すると交通量が増し危険が増えたかもしれないませんが、危険を恐れたら何もできないのではないかと思います、学校側とずいぶん話をしました。その学校では最近では海まで先生が引率して行っているようです。今は子どもたちが遊べる野原のようなものがないので、海岸をもっと自由に遊べるようにするべきだと思います。

意見・小中学校では現在ゴミ拾いを行っています。これも大事ですが、将来はこのような奉仕活動だけでなく、自然観察などを増やすことが大切ではないかと考えます。



意見・瀬戸内海の市町村では 先生たちは何を教えたらいのかというプログラムを作っています。是非神奈川県もそういう海の環境教育のあり方みたいなものを作っていただきたいです。今は先生たちが何を教えればよいのかがわからなくなっていますので先生向けのプログラムを作ることも必要です。



『委員の発表①』

・私はただ単に波を消すとか砂が流れないようにするだけであればお金をかける必要はないと思います。江ノ島の切り通しになった海岸側に島のように孤立しているところがあるので、そこがどんどん波で崩れています。その崩れているところをどうやって防止しているのかといいますと、ブロックを置いています。実際防げているかどうかわかりませんが防げているのであればその程度でいいのではないかと思います。今回ここに紹介されている工法はすべて砂浜を作る工法です。しかし、実際には砂浜だけではなく壁面も削られているので、砂だけを考えても意味がないと思います。私がここでメガフロートを提案した理由は、ただ波を消すということではなく、総合計画としてレクリエーションや研究施設なども兼ねた場所として整備をした方が良くと思います。

・この近辺には海の中を覗ける場所がありませんので、このように整備することによって、波を防ぎながら、この施設の中で海の中を観察できる場所をつくるのがいいと思います。メガフロートは莫大なお金がかかりますがこの周辺は人口も多いので大丈夫だと思います。

・今、建設省に「道の駅」という構想があります。これはよろするにバスや車が来て、皆さんが楽しめるような場所があるところです。これらと併せてレクリエーション環境の整備をし、青少年の研修や交流の場としても利用できます。これらをよく組み合わせれば、本当に人が集まれる場所ができるのではないかと思います。

・もうひとつ排水を利用して塩水プールを作ったかどうかと思います。海のそばに淡水プールを作るよりは塩水プールを作ったほうが効果的ではないかと考えます。これは今問題となっている赤潮対策にもなります。

・我々は、今後砂浜を生かした工事をする必要があります。そうしないと水が浄化されません。これは海のみならず我々の環境の生命でもあります。

意見・白砂青松は大切です。メガフロートのような大きな設備は素晴らしい海の景観が変わってしまうのではないですか。

事務局・メガフロートは東京湾のような静かな海なら効果があります。が、相模湾のように台風が直接あたるような波長の長い波の場所にメガフロートを置いても効果がありません。



図一メガフロート例

『委員の発表②』

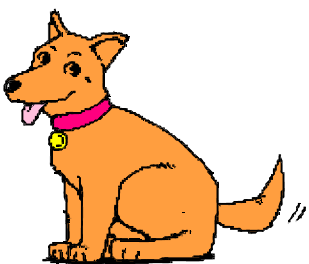
・私は犬を飼っています。それは動物との付き合いから人間が自然物であることを認識するため、また高齢者等を慈しむためであります。動物を飼うことにより、そういった人間のことを認識し、ユニバーサルなことを学ぶことにも有効であります。

・盲導犬はおしっこを我慢できます。だから、よほどの事が無い限り外でおしっこをすることは無いのです。こんなことも犬はできるので、飼い主によってしっかりとつければよくなるのであります。

・日比谷公園は犬のはなしがいを認めており、イギリスは犬に寛大で犬のトイレがある公園もあります。また、柵がありその中は芝生があり、その柵のなかで人間が活動する公園があります。

・ここで私は日本初の犬のフリースペースを提案します。ここでは犬がけんかをしないようになります(することができません)。私は湘南のビーチサイドにこういうのがほしいと思います。

意見・こういう新しい考え方も大切であると思いますが、少年少女のための場所をその前に考えていくべきではないでしょうか。

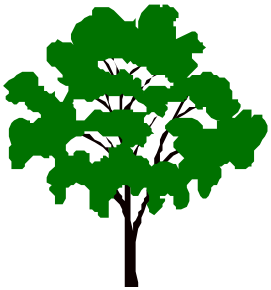


『委員の発表③』

私は浜辺の植物についてお話しします。
・珍しい植物は持って帰られてしまったりあるいは注意を払われない植物は生活の場を奪われてしまっているということがいえます。そうした何の変哲も無い海岸の植物をかわいがってあげれば良いと思います。

・神奈川県立七沢の森林公園に「雑木林ファンクラブ」というものがあります。5年ほど前からあるのですが今年度はじめて毎月第3日曜日に、午前10時集合で約2時間ぐらい、下草狩りをしたり落ち葉たきをしたりしています。活動の後にはみんなでお食事をやっています。うどん粉をこねて、落ち葉とかを燃料にしてピザを焼いています。
・公園の職員が東京農大出身でその後輩たちが子供と遊んだりしており、学生のできる範囲で手伝ってもらっています。
・少なくとも今より海岸の状況が悪くならないようなそういった自然の事をやっていただいで、自然を学ぶという勉強の場ができればいいと思います。

・海岸の清掃の話で大学生や子供など誰でもそうなのですが、必ず遊びの要素を入れなければいけない、清掃をするための清掃ではなく、清掃がレクリエーションにならなくてはいけないと思います。
・みんなで遊びながら作業にならないように、それこそ自然の勉強もできたり保全活動もできたり、ということではないかと思いませんか？



二月五日(土)

第四回 懇話会 の開催

平成二二年二月五日(土) 午後一時半～午後三時四十分まで、茅ヶ崎市役所分庁舎五階E会議室にて、「第四回 茅ヶ崎の浜辺(中海岸)づくり懇話会」が開催されました。

今回も第三回懇話会に引き続き委員の方の発表を中心に懇話会が進められました。
海外での経験から海岸の利用や景観の提案をして頂いたお話や、利用という面でサーファアの立場からみた海岸整備の提案や、「ゴミ問題について子供が楽しくゴミ拾いができるような「ゴミハンター」の提案等、さまざまな視点から見た浜辺づくりの提案をしていただきました。
下記に第四回懇話会における議事をまとめました。

第4回 懇話会

平成12年2月5日
(13:30~15:40)

1. 挨拶と説明 (15分)
2. 前回の懇話会を受けて (10分)
3. 委員発表 (3名)
4. 近藤先生講評 (10分)
5. 事務局連絡 (5分)



質問・海の中に構築物を作るのは基本的には難しいのですか。
例えば山の中に木を植えるように、海の中に植物を植えるということは出来ないのでしょうか。また、海藻は人工リーフに付着しにくいのですか。植物によつての消波効果があるといったことはないのでしょうか。
事務局・陸とは違った環境になりますが、今まさに研究している段階です。

『委員の発表①』

・藤沢や平塚などと比べたら茅ヶ崎の海岸は圧倒的に自然のまま、サイクリングロードがとても心地よく、散歩するには1番よいと思います。

・具体的にこれから茅ヶ崎を考えていく上で、文化的にも代表するビーチにした方がいいのではと思います。例えばビーチの運営に関しても市民が自ら加わっているような意見を出せるような仕組みを作ったビーチにできたらいいなと思います。また、夏だけのビーチの利用というのではなく、一年中利用可能な海の家あるいは施設を作っていけたらと思います

・次に、お年寄りやハンディキャップの方々も楽しめる憩いのビーチになるようにするために、椅子があったり日影があったりあるいは駐車場が近かったり、そんな仕組みを作っていきたいと思います

・日本人だけではなく、外国の人にも来てもらって1つの交流になれば、文化的にもおもしろいと思います

・懇話会の役割については、実際今回初めて民意を聞き入れる機会として発足したと思います。こういう組織や集まりよりも一歩前進させたものが生まれる起爆剤になればと思います。

・私は三年前までシンガポールに駐在していました。その間、シンガポールのフルマラソン中でチャリティをやること

提案しました。チャリティの内容は走れたキロ数だけお金を集めようというものです。二十数万円集まり、現地の障害者団体に寄付しました。

・またシンガポールでは例えばマンションのプールにしても、どこのプールでも自由に使っているが、その代わりに自分のリスクで使ってくださいというのが書いてあります。ビーチでもそうなんです。つまり自分の責任で自分の管理で使うというのが大前提になっています。ところが、日本では、例えば学校等でも子供がケガをすればすぐ先生の責任になってしまうというのがあります。「自分たちの責任で自分たちでやる」という考えがいいと思います。つまり、ビーチでゴミを捨てない等勝手に委員でルールを作ってしまうのもおもしろいのではないかと思います。

・シンガポールには海岸に木や植物があります。しかし、日本ではそうしたのがありません。もし木があれば真夏でも日影が出来てよいと思います。また、松林の中に駐車場ができないかと思っています。外国では車と車の間に木があり、駐車場のスペースと木が一緒になっています。

・最後に、具体的な工事の案として人工リーフを作ることが必要なのではないかと思っています。そして、そこまでの工事を行うのであれば、3角形の人工リーフを作っていた方がいい。そうすることにより波がいい形になり、波乗りもできるようになると思います。考え方によっては観光としてのビーチの利用ができるようになって話題を呼ぶのではないのでしょうか。



『委員の発表②』

・去年の四月から、市民の声を聞いて、平成三年から始まった十年計画が今年で終わります。平成十三年からどうしようかというところで、市民の声を聞くというものです。市民提案会議で海、海岸線に関連して出された内容をお話します。

・都市環境部会により、「子孫に残そう茅ヶ崎の海」ということで、自然のまま海を残していこうというものです。

・「市民みんな環境と共生が出来るまちづくり」は、神奈川県が求めている課題であります。

・「湘南茅ヶ崎美化条例の制定」は茅ヶ崎の海岸を守るために条例を決めようというものです。4月からは都市景観条例が施行されます。

・「既存公園の活性化と質の向上」は、海浜植物を茅ヶ崎公園に植えて増やそうという提案です。

・産業振興部会より「海の見えるサイクリング」を中心とした観光推進」とありますが、茅ヶ崎周回サイクリングロードを作れば、それがひとつの観光資源になるのではないかと思います。

・「茅ヶ崎海岸線の維持、砂浜の保全と景観の維持」は、海岸線がなくなったら、茅ヶ崎の海ではなくなってしまうから、それを守っていこうとするものです。

・「茅ヶ崎漁港地区の都市公園化」は漁港そのものは整備されましたが、その周辺は手付かずのままです。

・「茅ヶ崎中海岸地区に海釣り・親水公園の設置」は、もし離岸堤などを造ることができたら、その内側を親水公園にしたり、栈橋を設け、海釣り公園にする等といった案です。

・「漁業の基盤整備と発展」は、観光漁業に重点が置かれてきていますが、漁業の後継者が続いていくことを期待しているわけです。

・「鉄砲道」を茅ヶ崎らしさを発信する道路とする」は、

鉄砲道を茅ヶ崎のメインロードとしたいと思っています。

「柳島地区を文京地区に指定し、少年少女の体験の場とする」は、処理上部利用と共に海岸、小出川、相模川を使い、氷とのふれあいの場を作りたと思います。

「茅ヶ崎の文化、歴史資源の発掘、活用のための人材活用」は、人間が活動すれば、そこにお祭りが出来るのではないかと提案したわけです。

・先日、中学生が周辺の清掃を行ってくれました。そこで、ゴミ袋についての考察なのですが、私は、孫を海につれていくとき、必ず小さなビニール袋を持って歩きます。なぎさのあたりを歩き、サイクリングロードまで戻ってくるときに、ゴミハンターをするわけです。自分や動物の体に危ないゴミと、海に入ってしまうとお魚さんに申し訳ないゴミを探させるのです。その時に小さな袋をもっていると大変役に立ちます。人間は素手で拾ってゴミ箱まで持っていくというのは、大変抵抗感を感じるわけです。

・中学生の去年のゴミ拾いを見ていましたが、去年は大きなゴミ袋を持って、その周りでゴミを拾っているわけですが、なかなか効率が良くないようでした。今年は、一人一人が小さなゴミ袋を持って、分散して作業をしていました。

・ゴミ拾いとなると大変なのですが、一人一人が狩猟採取としてのゴミハンターとなれば遊び感覚でできるのではと思います。

意見・ゴミを拾うという意識はあります。ただ、ちょうどよい袋がないとか、拾ったものの置き場がありません。

